

読解力向上を目指して

～リーディングスキルの視点を取り入れた授業の工夫～

福島県では「AI時代を生き抜く読解力向上事業」に取り組んでいます。県南域内では、塙中学校区が研究モデル校となっており、今年度も塙小学校が研究センター校として研究公開を行いました。「リーディングスキル」とは何か、「リーディングスキル」の視点を取り入れると授業づくりがどのように改善できるのか、実際の授業実践を取り上げながら改めてご紹介します。

(1) はじめに・・・読解力についてこんな思い込みはありませんか？

文字が読めれば、内容も読めている。

読解力は国語だけの問題だ。

読解力を高めるためには特別な授業が必要だ。

無理矢理にでも読書させれば読解力は上がるはず。



必ずしもそうとは
限りません！

(2) リーディングスキルとは

「基礎的・汎用的読解力であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を迅速かつ正確に読み取る力」であるとされています。（「AI vs 教科書が読めない子どもたち」新井紀子 著）
リーディングスキルテストでは、6分野7項目で測定されます。

リーディングスキルテスト（6分野7項目）

- ① 係り受け解析・・・文の構造を正しく把握する。読解力の最も基礎となる能力。
- ② 照応解決・・・代名詞または、省略された代名詞が何を指しているかを正しく認識する。
- ③ 同義文判定・・・与えられた二文が同義かどうかを正しく判定する。
- ④ 推論・・・既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する。
- ⑤ イメージ同定・・・文と非言語情報（図やグラフ等）を正しく対応づける。
- ⑥ 具体例同定（辞書・理数）・・・辞書の定義及び理数的な定義を理解し、新しい語彙とその用法を獲得。

(3) リーディングスキルの視点を取り入れた授業の工夫

子どもたちの読解力には個人差がありますが、リーディングスキル（6分野7項目）の視点を取り入れながら授業づくりを行うことによって、子どもたちの「読み」の凸凹をなくし、教科書の内容理解を確かなものにすることができます。リーディングスキルの視点を取り入れた授業実践を行ってきた塙小学校の取り組みからは、次のような成果が見えてきました。具体的な実践事例を次項で紹介いたします。

教材研究の質の向上

教師がリーディングスキルの視点で教科書を読むことで、子どもたちのリーディングスキルに起因したつまづきを予測し、単元や授業を構想することができ、教材研究の質が向上する。

効果的な発問

教師自身が、意図が明確に伝わる発問を意識するようになり、学習目標を達成するために効果的な発問を行うことができる。

学習内容の正確な理解

子どもたちのアウトプットの場を増やし、理解が曖昧な部分を取り上げて教師がフィードバックすることによって、学習内容の理解を確認・修正することができる。

言葉にこだわる姿勢の育成

子どもたち自身が言葉の意味、言葉と非言語テキスト（図やグラフ等）との対応に着目するなどして、考えたり発言したりする姿勢が育つ。

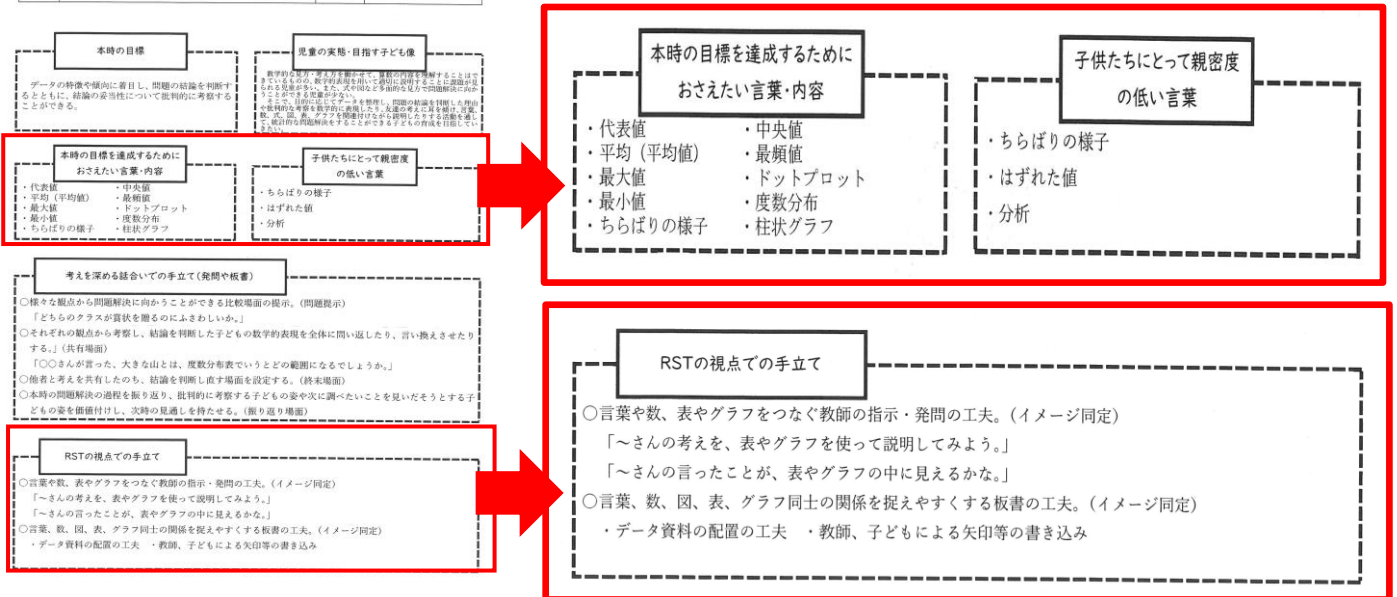
(4) 埼玉小学校研究公開から

①授業づくりにあたって

子どもたちのつまずきを予測し、授業や単元を構成するために「授業づくりワークシート」を活用しています。授業で押さえるべきポイントや必要な手立てを明確にすることができます。

授業づくりワークシート			
学年	6学年	教科	算数教科
単元名	データの調べ方		ページ数 21ページ

〈 6年 算数科「データの調べ方」より 〉



②公開授業の一場面から

研究公開では国語・理科・算数の3教科の授業が行われました。リーディングスキルの視点を取り入れた授業づくりによって、子どもたちにどのような学びが生まれたかをご紹介します。

【国語】1年「じどう車くらべ」 事例の順序や内容について考える活動を通して、構成の意図を捉える。

(グループでの話し合い)

C: ハンドルはどの車にもあるよね。クレーン車はレバー。
 C: つりあげるときレバー使う。
 C: クレーン車だけが持つてること書くんじゃない? クレーン車にハンドルはらない。その自動車だけにあるのを書くと思う。

(全体での話し合い)

C: ハンドルはどの車にもついているから書かなくていい。
 C: クレーン車にしかできないこと。
 T: 「しか」ってどういうこと?
 C: たとえば「しごと」。おもいものをつりあげるのは、クレーン車にしかできないこと。
 (略)
 T: クレーン車にしかできないよってことを書いてる言葉があるんだけど見つけた?
 C: 「そのために」です。
 T: 「そのために」の「その」って何を指すの?
 C: しごと。
 C: しごとをするために。

照応解決

指示語が指している言葉を問うことによって、正しい内容理解を図っています。

係り受け解析

クレーン車のつくりに必要なない文を提示することによって、つくりと仕事に関係について考えています。

スクリーンショット: クレーン車の説明に必要のない文を混ぜ、ばらばらに並べて提示

黒板: クレーン車のつくりに必要なない文を提示することによって、つくりと仕事に関係について考えています。

【理科】4年「ものあたまり方」 金属板を熱する実験を通して、金属は形を変えても熱したところから順にあたたまることを見いだす。

T: どういうふうにあたまるの?
 C: 火の当たってる方から、火の当たってない方に。
 C: 棒と同じ。
 T: 棒と同じようにって言うてるけど、全然違うよ?
 C: 棒と違って、横じゃなくて全体に広がっていく。
 C: 棒よりもあたまるのに時間がかかって、少しずつ赤くなっていった。
 C: じわじわ広がった。
 C: 全体にすきまなく広がっていった。
 T: どんなふうに広がっていった?
 C: 形が違うだけで棒と大体同じ。
 T: 棒と板ってあたまり方は同じなんだね。

イメージ同定

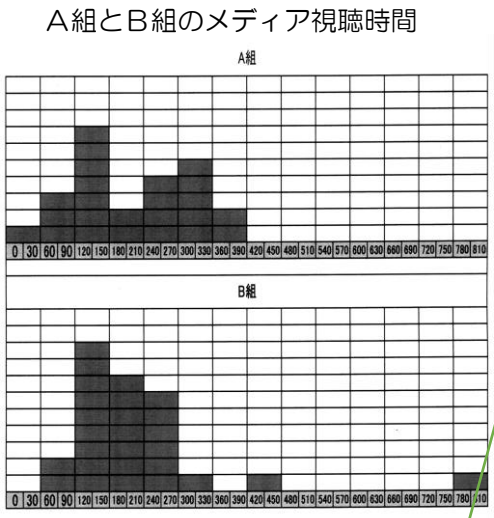
子どもがアウトプットした内容を教師がフィードバックすることによって、曖昧なとらえを明確にする働きかけを行っています。

イメージ同定

実験結果の図と関連付けながら、あたまり方を具体的に説明しています。



【算数】6年「データの調べ方」 データの特徴や傾向に着目し、問題の結論を判断するとともに、結論の妥当性について批判的に考察することができる。



T: (柱状グラフ) どういう形ですか?
 C: B組は1つの山。A組は2つの山。
 T: 平均で見るとA組がいいって言うたけど、グラフの山の形で見るとどう?
 C: A組の山の形はちょっと不安定で、意識してる人としてない人で分かれてる気がする。
 T: 数値で見ると?
 C: 60以上と240以上
 T: 2つの山にわかれているということは?
 C: B組は全体的に意識してるけど、A組はばらばら。
 C: (B組は) 意識してるって言うてますけど、右側を見ると420分と780分の人があります。その2人をたすと1000分以上になって合計の4分の1を占めています。それで本当に意識しているかどうか。

イメージ同定

柱状グラフの形状に着目する発問を行うことによって、グラフの特徴の言語化を促しています。

推論

柱状グラフが2つの山に分かれていることを問うことによって、根拠をもとに推論する子どもの姿が生まれています。

今回は小学校の実践を紹介しましたが、中学校でも、教科の枠を越えて「リーディングスキル」という視点で授業改善について話し合うことが可能です。大切なのは教科や単元の目標を達成することです。子どもたちのつまずきを解消し、読解力を高めることによって学習理解を深めるためにも、ぜひリーディングスキルの視点を授業に取り入れてみてください。



- ・福島県教育委員会 「令和2年度 AI 時代を生き抜く読解力向上実践事例集」
- ・「AI vs 教科書が読めない子どもたち」新井紀子 著
- ・「AI に負けない子どもたちを育てる」新井紀子 著
- ・教育のための科学研究所 Web ページ